学校番号	3003

令和２年度　美術科

教科	美術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	美術２（光村図書）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

- デザイン系３年生の選択科目として、主に芸術・美術系大学、専門学校への進学を希望する生徒を対象とします。
- 生徒一人一人の美術における表現や鑑賞の能力を一層高め、創造的能力や、自己の進路へ向けて主体的に生きる力を育成します。
- 技術的に難易度を上げ、完成度の高い作品制作指導を行います。また、４～7 月までは各大学・専門学校の受験対策としてデッサンや色彩構成、立体制作を個別指導します。

2　学習の到達目標

- 美術の幅広い活動を通して、造形的な見方･考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	制作の様子 鑑賞活動の様子	アイデアスケッチ 作品	作品	合評会による相互鑑賞 発言内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。作品の未完成・未提出は欠点となり、作品を完成させ提出しても出席点・授業態度点が悪ければ欠点となる。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	高校美術Ⅱについて	【鑑賞】【デッサン】【色彩】 ・オリエンテーション 教科書等を鑑賞し、多様な表現形式について学び、「美術Ⅱ」の学習イメージを持つ。 ・教科書、道具、学習内容、評価についての理解。 ・基礎デッサン(グレースケール) ・アクリルガッシュによる色彩構成(色の3属性)	○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	○	a:美術の多様な表現に関心を持ち、これからの学習に意欲を高めている。 d:美術作品などのよさや美しさを感じ取り、美術の働きや文化ついての理解を深めている。 b:色彩の観察力、鉛筆やアクリルガッシュによる表現方法の理解。 c:鉛筆による描画力、色彩感覚の幅を広げ、アクリル絵の具の特性を生かした色彩構成の技法を習得している。	学習活動の様子 制作の様子 出席・授業態度 作品
	基礎デッサン・デザイン(色彩構成)	【デッサン】【デザイン】【鑑賞】 ・基本形態(石膏よる立方体、円柱、球)デッサンと合評会。 ・アクリルガッシュによる色彩構成(冷・暖の表現、対比による表現)と合評会。 ・アクリルガッシュによる色彩構成(テーマ表現)と合評会。 【デッサン】【色彩】【鑑賞】 ・木、ガラス、鉄等のデッサン。質感を重視し、複数のモチーフを組み合わせる。 ・アクリルガッシュによる色彩構成。テーマ表現、過去問題等 ・合評	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○	a:生活社会における美術・デザインに関心を持ち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。 b:対象を見つめて、形体の特徴をつかみ、構成などを工夫している。色彩感覚の幅を広げ、テーマに合った色彩構成の意味を理解している。 c:鉛筆やアクリル絵の具の特性を生かし、表現方法を工夫して、条件や計画を基に表現している。 d:他の生徒の作品のよさや美しさ、表現の工夫などを感じ取り、理解を深めている。	制作の様子 出席・授業態度 鑑賞活動の様子や発言内容 作品

後期	本を作る	【デザイン・工芸】【鑑賞】 ・本の制作 画用紙を張り合わせて 10ページを作る。テーマは自由。表装までを完成とする。 ・合評会	○	○	○	○	a:生活や社会を心豊かにする美術の働きやデザイン工芸の目的や条件、機能や用途などを考えて表現することに関心を持ち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。 b:アピールする事物などデザインの目的、本の機能、美しさなどから主題を生成し、描画材や表現形式の特性、形や色彩などの働きを考えて表現の構想を練っている。 c:目的や意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、目的や計画を基に表現している。 d:作者の意図や表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取り、生活や社会を心豊かにする美術の働きや作品などついて理解を深めている	制作の様子 出席・授業態度 鑑賞活動の様子や発言内容 作品
	陶芸	【工芸・陶芸】【鑑賞】 ・工芸作品制作 土(つち)粘土を素材とした器(立体)の制作 ・合評会	○	○	○	○	a:モチーフの特徴を表現することに関心を持ち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。 b:表現形式の特性を生かし、形体、色彩などを工夫して表現の構想を練っている。 c:土粘土や釉薬、用具の特性を生かし、表現方法を工夫して表現している。 d:よさや美しさ、表現の工夫などを感じ取り、作品について理解を深めている。	制作の様子 出席・授業態度 鑑賞活動の様子や発言内容 作品

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力
c:創造的な技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。